

語註・典故・作詩メモ		結句		転句		承句		起句		詩題
洽博・知識・学問などが広く、物事によく通じていること。		今	○	刻	●	生	○	洽	●	追懷木村展幸先生  支韻
		日	●	銘	○	前	○	博	●	
		相	○	墓	●	題	●	耽	○	
		思	○	石	●	出	●	書	○	
		塵	○	留	○	一	●	愛	●	
		世	●	其	○	篇	○	酒	●	
		姿	◎	意	●	詩	◎	旗	◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ
博識雄弁な年上の友人がいた。漢詩にも造詣が深く、引退した頃にその人生を振り返る一篇の詩を作った。それを私が揮毫した書を墓石に刻み込んでくれた。墓前でそれを見ると、酒場で一緒に会話を楽しんだ姿を思い出す。

読み下し文			
今日 塵世の姿を相思ふ	墓石に刻銘し 其の意を留め	生前 一篇の詩を題出す	洽博にして 書に耽り 酒旗を愛し

作詩日	平仄式	名前
令和四年十一月十日	仄起式	牛山 知彦



神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

				結句	転句	承句	起句	詩題
				忽 ●	掃 ●	萱 ○	老 ●	追懷先妣
				懷 ○	墓 ●	草 ●	來 ○	
				恩 ○	燒 ○	慈 ○	身 ○	
				愛 ●	香 ○	顔 ○	退 ●	
				涙 ●	添 ○	今 ○	遠 ●	
				成 ○	白 ●	不 ●	還 ○	陽韻
				行 ◎	菊 ●	忘 ◎	郷 ◎	

その他のメモ			
萱草 ↓ 母親			

忽 <small>たちま</small> ち恩 <small>おんめい</small> 愛 <small>あい</small> を懷 <small>おも</small> い 涙 <small>なみだ</small> 行 <small>こう</small> を成 <small>な</small> す	墓 <small>はか</small> を掃 <small>はら</small> い 香 <small>こう</small> を燒 <small>や</small> き 白 <small>はく</small> 菊 <small>く</small> を添 <small>そ</small> えれば	萱 <small>けん</small> 早 <small>そう</small> の慈 <small>じ</small> 顔 <small>がん</small> 今 <small>いま</small> に忘 <small>わす</small> れず	老 <small>お</small> い來 <small>きた</small> りて 身 <small>み</small> 退 <small>しじ</small> き 遠 <small>とほ</small> く郷 <small>きやう</small> に還 <small>かえ</small> る	先 <small>せん</small> 妣 <small>ひ</small> を追 <small>つい</small> 懷 <small>かい</small> す
---	---	--	--	---

作詩日	平仄式
令四・十一提出	
	名前
	岡嶋 宣昭

語註・典故・作詩メモ

手表・日本語の腕時計。  
私の父は先の大戦で、飛行訓練中に海上に墜落し、九死に一生を得る体験をしたそうです。その時身につけていた腕時計が形見になりました。詩では飛行機を船に置きかえています。

その他のメモ

結句		転句		承句		起句		詩題
此	●	勇	●	想	○	先	○	追懐先考
時	○	戦	●	見	●	考	○	
手	●	楼	○	驍	○	早	●	元韻
表	●	船	○	雄	○	歳	●	
宅	●	沈	○	独	●	事	●	
中	○	大	●	出	●	戎	○	
存	◎	海	●	門	◎	軒	◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

文		し		下		み		読	
せんこう	ついかい	せんこう	そうさい	じゅうけん	こと	せんこう	そうけん	ひと	もん
先考を追懐す		先考の早歳	戎軒を事とす	驍雄を想見し	独り門を出づ	勇戦するも	楼船大海に沈む	此の時の手表	宅中に存す
せんこう	じゅうけん	せんこう	じゅうけん	じゅうけん	こと	せんこう	そうけん	ひと	もん
先考	戎軒	先考	戎軒	驍雄	独り	勇戦	楼船	此の時	手表
追懐す	こと	早歳	事とす	想見し	出づ	も	に沈む	の時の	に存す
								の	
								手	
								表	
								宅	
								中	
								に	
								存	
								す	

作詩日	令和四年十一月	平仄式	平起式	名前	高橋 幸雄
-----	---------	-----	-----	----	-------

語註・典故・作詩メモ				
窮秋：秋の末	征路：旅行く路	丹嶂：紅く染まった峰	考妣：亡くなつた父母	佳城：墓地
深仁：深い思いやり	掃墳塋：墓を掃除する			

結句	転句	承句	起句	詩題
深 ○	考 ●	征 ○	窮 ○	
仁 ○	妣 ●	路 ●	秋 ○	追懐考妣
回 ○	佳 ○	西 ○	凜 ●	
想 ●	城 ○	連 ○	冽 ●	
掃 ●	楓 ○	丹 ●	冒 ●	庚韻
墳 ○	樹 ●	嶂 ●	霜 ○	
塋 ◎	下 ●	横 ◎	行 ◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ				
毎年冬が来る前の秋の末、 父母の眠る墓(富岳の麓に在る)を訪れ、 掃除することを詠った				

読み下し文				
深仁 <small>しんじん</small> を回想 <small>かいそう</small> し 墳塋 <small>ふんえい</small> を掃 <small>は</small> く	考妣 <small>こうひ</small> の佳城 <small>かじょう</small> 楓樹 <small>ふうじゆ</small> の下 <small>もと</small>	征路 <small>せいろう</small> 西 <small>にし</small> に連 <small>つら</small> なり 丹嶂 <small>たんしょう</small> 横 <small>しよう</small> たわる	窮秋 <small>きゆうしゆう</small> 凜冽 <small>りんれつ</small> 霜 <small>しも</small> を冒 <small>おか</small> して行 <small>ゆ</small> く	追懐 <small>ついかい</small> 考妣 <small>こうひ</small>

作詩日	平仄式	平起式	名前
R4・11・4			武田 一郎

語註・典故・作詩メモ

○椿堂・父親 ○感旧・昔を思い出して感慨深い  
 ○寧日・安らかな日々 ○七秩・七十年

結句	転句	承句	起句	詩題
七 ●	随 ○	不 ●	夢 ○	追懷先孝
秩 ●	縁 ○	求 ○	覺 ●	
人 ○	安 ○	名 ○	椿 ○	
生 ○	分 ●	利 ●	堂 ○	
簡 ●	全 ○	不 ●	感 ●	東韻
素 ●	寧 ○	誇 ○	舊 ●	
豊	日	功	窮	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

読み下し文

七秩しちじちの人生じんせい簡素かんそにして豊とよかなり

縁えんに随したがい分ぶんに安やすんじ寧日ねいじちを全まもうす

名利めいりを求もとめず功こうを誇こほらず

夢ゆめ覚さめて椿堂ちんどう感旧かんきゅう旧窮きゅうきゅうまる

追懷先孝しゆいせんこう

作詩日

令和4年10月26日

平仄式

仄起式

名前

平賀康雄

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
	暮念 ●	往 ●	満 ●	秋 ○	追懐先妣七周忌
	親 ○	事 ●	地 ●	風 ○	
	七 ●	茫 ○	桂 ●	獨 ●	先韻
	歳 ●	茫 ○	花 ○	立 ●	
	愛 ●	人 ○	懐 ○	北 ●	前
	綿 ○	不 ●	九 ●	邨 ○	
	綿 ◎	見 ●	泉 ◎	前 ◎	

その他のメモ

親を慕ふこと七歳愛綿綿 <small>シ 念する ナナサイ アイメンメン</small>	往事は茫茫として人見えす <small>おとし ぼうぼう ひとみ</small>	地に満つ桂花に九泉を懐ふ <small>チ ミツ ケイカ キュセン オモ</small>	秋風に独り立つ北邨の前 <small>しゅうふう ひと た ぼくぼう まえ</small>	詩題の読み
---	---	---	--	-------

作詩日	平仄式	名前
令和四年	平起式	古川 彌
十一月八日		

語註・典故・作詩メモ			

その他のメモ			

結句		転句		承句		起句		詩題
吁 ○		曾 ●		往 ●		歸 ○		
嗟 ○		約 ●		事 ●		郷 ○		追懐先考
摧 ○		征 ○		回 ○		幾 ●		
折 ●		帆 ○		頭 ○		度 ●		
總 ●		探 ○		倍 ●		已 ●		
成 ○		勝 ●		愴 ●		無 ○		真韻
塵 ◎		旅 ●		神 ◎		人 ◎		

読み下し文							
吁 嗟 摧 折 総て 塵と 成るを	曾て 約す 征帆 探勝の 旅	往事 回頭すれば 倍愴神	帰郷 幾度 已に 人無し	追懐 先考			

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和4年10月			松本祐輔

語註・典故・作詩メモ

提孩(ていがい) 幼児  
徒手(としゆ) 技術がない

結句		転句		承句		起句		詩題
兒	○	早	●	徒	○	失	●	
孫	○	暁	●	手	●	夫	○	
此	●	深	○	非	○	養	●	
在	●	更	○	才	○	育	●	
有	●	偏	○	杖	●	兩	●	
之	○	勉	●	僅	●	提	○	
培	◎	勵	●	媒	◎	孩	◎	灰韻

その他のメモ

讀 下 し 文

兒孫此れに在るは之培いに有り	早暁から深更まで偏に勉勵す	徒手非才僅かな媒を杖り	夫を失くし兩提孩を養育す	先妣を追懷す
----------------	---------------	-------------	--------------	--------

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	名前
令和四年十一月三日	平起式	三浦 昭二

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
大正時・・・大正時代 教育委・・・教育委員				努 ●	晩 ●	平 ○	父 ●	七言絶句 追懐先考
				力 ●	年 ○	成 ○	者 ●	
				人 ○	教 ●	御 ●	誕 ○	
				生 ○	育 ●	世 ●	生 ○	
				是 ●	委 ●	去 ●	大 ●	
				我 ●	慶 ○	天 ○	正 ●	支韻
				師 ◎	事 ●	之 ◎	峙 ◎	

その他のメモ
父は、大正時代に生まれ、平成の初期に逝去した。 戦後は、戦前と全く異なる分野の職に就いたが、チャレン と努力で世に認められたと思う。 その為か、最後にこれまた全く畑違いの教育委員に選任 された。私にはとても真似できない人生であったと思う

読み下し文			
追懐先考	父は大正時代に誕生し	平成の御世に去りて天に之た	晩年教育委になったのは慶事であった
努力の人生は是わが師なり			

作詩日	平仄式	名前
令和四年十一月九日	仄起式	森谷正彦

語註・典故・作詩メモ	
起句 「書」が重複しているが「之」が良いか	承句 「書」が重複しているが「之」が良いか
師資——師匠と弟子 書藝は和臭か——書法とすると語の範囲が狭まる	

結句	転句	承句	起句	詩題
耳 ●	人 ○	師 ○	曾 ○	追懐先師
低 ●	生 ○	資 ○	説 ●	
猶 ○	進 ●	相 ○	師 ○	
留 ○	路 ●	語 ●	吾 ○	
激 ●	非 ○	向 ●	書 ○	
勵 ●	常 ○	書 ○	藝 ●	庚韻
聲 ◎	阻 ●	行 ◎	道 ●	

文 下 し む 読

先師を追懐す	曾て師吾に書芸の道を説く	師資相語り書に向かつて行	人生の進む路は非常に阻く	耳低に猶留む激励の声を
--------	--------------	--------------	--------------	-------------

その他のメモ	
私の将来の道を聞いてくれたのは偶々高校の書道講師をし、大学でも書道担当の日展の書の作家であった。師は将来の進路について私を導いて下さった。この年になっても未だに当時の事が思い起こされてならない。	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	令和四年十一月提出	仄起式	名前
第二稿			諸星暢義	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	名前
2022年11月10日	平起式	山口 幸雄

結句	転句	承句	起句	詩題
玄 ○ 孫 ○ 生 ○ 誕 ● 請 ● 安 ○ 眠 ◎	詠 ● 句 ● 唱 ● 歌 ○ 欣 ○ 酒 ● 旅 ●	篤 ● 實 ● 從 ○ 商 ○ 數 ● 十 ● 年 ◎	歸 ○ 郷 ○ 懷 ○ 古 ● 佛 ● 龕 ○ 前 ◎	追懷先考          先韻

その他のメモ

父を詩にすることなど考えたことがなかった。とりあえずまとめただけで心情は…  
はじめは薪炭商で次第に灯油、プロパンガスを商い、最後は住宅設備なども扱うようになった。  
下手な俳句を詠み、ときに鼻歌を歌い、団体旅行が好きだった。温厚な性格で、酒を飲んでも変わらず、ただニコニコしていた印象が強い。

追懷先考  
ついかいせんこう

歸郷 懷古す 仏龕の前  
ききょう かいこ ぶつがん まえ

篤實に商に従いし数十年  
とくじつ しょう したが すうじゅうねん

句を詠み歌を唱い 酒と旅を欣ぶ  
く よ うた うた さけ たび よろこ

玄孫生誕す 安眠を請う  
げんそんたんじょう あんみん こと